

チリ地震津波から46年 あの教訓を忘れずに!

5月24日(水) 午前6時、南三陸町全域で「地震・津波防災訓練」が行われました。

この訓練は、昭和35年5月24日早朝に三陸沿岸などを襲ったチリ地震津波で大きな被害を受けた旧志津川町では、その教訓を忘れず次世代に引き継ぐために、その災害の日にあわせて防災訓練を行ってきました。南三陸町においても、地震や津波から身を守るためには、訓練による防災意識が高まることが大切であると考え、南三陸町全域で訓練を実施することになったものです。

早朝にも関わらず多くの町民が訓練に参加し、真剣な表情で取り組んでいました。



地域防災意識を高める自主防災訓練

行政区などの地域が主体となって独自の内容で訓練に参加する、自主防災訓練が広がっています。地形や環境に合った消火訓練、救護訓練、避難訓練などを行い、地域の防災力を高めました。



陸門の閉鎖訓練 (本浜地区)



耐震化・閉鎖速度改良工事を終えた水門 (新井田川)



呼びかけあいながら、安全な場所へ (滝浜地区)



多くの住民が高台に避難 (大森地区)



岩沢地区火災防ぎょ訓練に、入谷全域から参加